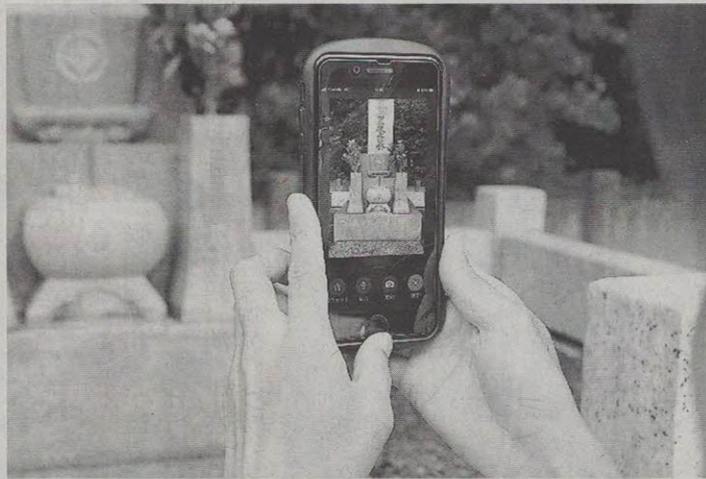


帰省白肅 墓参りもリモート

代行依頼増加 画面越しに手を合わせる

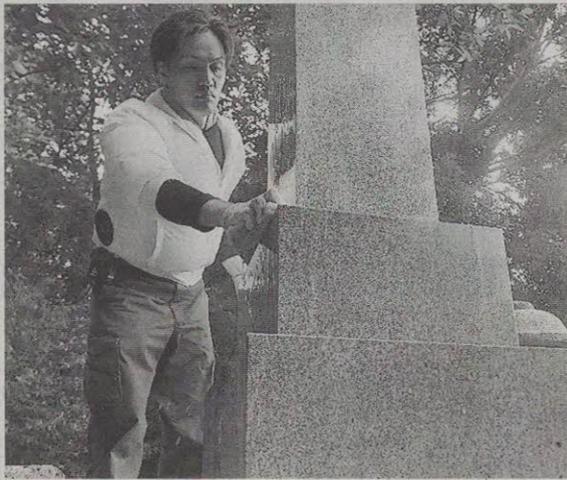


新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、全国知事会が帰省について慎重な呼びかけをした今年のお盆。名古屋市では「リモート墓参り」の依頼が業者に相次いでいる。

「今、お墓に着きました。これから作業します」「ずいぶん草も生えて、汚れていますね。よろしくお願いします」
名古屋市内の墓地に、ビ

デオ通話のやりとりが響いた。スマートフォンを操作するのは、墓参り代行業者「(一)縁道」(名古屋市長東区)の浅野貴大代表だ。依頼主は東京在住で名古屋出身の女性(59)。

お盆には必ず墓参りをしてきたが、コロナ禍の今夏は断念した。「お墓が汚れたままでお盆を迎えるのは申し訳ない」と悩んでいた矢先、代行サービスを知ったという。浅野代表は約1時間かけて、草を取り、墓石を水洗い。仕上げに線香をあげ、仏花を供えると再びビデオ



下草取りや墓石の水洗いなどを代行する業者が清掃した墓をビデオ通話で依頼主に見せる(墓石の家名をぼかしています) 11日、名古屋市内

通話をつなぎ、草がすっかりなくなっただけを伝えました。依頼した女性は「どうもありがとう！ すぐきれいになっていきますね」と喜んだ。

ビデオ通話中、墓前を静かに映し続ける時間も設けた。女性は画面越しに約1分間、手を合わせたという。「本当にお墓参りをしたような気持ちになれて、うれしかった。お願いして良かったです」

浅野代表によると、リモート墓参りの依頼は7月ごろから増え始め、1カ月半で約30件あった。昨年の倍以上で、首都圏ほか県外からの依頼が目立つという。「新型コロナウイルスの影響で、お彼岸やゴールデンウィークも帰省や墓参りをあきらめた方が多かったためでは」。

愛知県では感染者の発表が連日1000人を超え、6日から24日まで独自の緊急事態宣言が出たことも影響し

ているとみられる。

仏教関係者は「リモート墓参り」をどう見るのか。17日に合同法要をインターネットで初めて配信する予定の永正寺(愛知県江南市)の中村建岳副住職は「大切なのは形式にこだわることではなく、祈りを通じて心を落ち着かせること。コロナ禍だけでなく、

今後も高齢化で墓参りや葬儀参列が難しい人は増えるだろう。オンラインは補充する選択肢の一つ。お寺としても、祈りや風習が途絶えないよう様々な対応を考えた」と話す。

「(一)縁道」の墓参り代行料金は墓地までの距離によって違い、税抜き8千円から。ビデオ通話による中継はもとも有料のオプションサービスだが、当面は無料で提供するという。問い合わせは同社(0120・085・907)へ。

(原知恵子)